

NPO法人びーのびーの2015年度事業報告書

2015年4月1日～2016年3月31日

第1 1年を振り返って

15年目の活動に入り、6月の総会に合わせ、15周年記念としてたくさんの所縁のある方々から温かい応援メッセージを頂き、自分たちの活動を振り返りながらスタートを切った1年だった。

「小規模保育事業ちいさなたね保育園」の運営については、関わる保育士たちとのチームワークを大事にしながら、1年目にして場所のオーナーはもちろん、地域の商業施設トレッサや近隣保育園、高齢者施設などとの連携が進んだ。0歳～2歳の交流保育の実践などを試み、その成果を対外的に発表する場もあり、保護者からの厚い信頼を得ながら、地域の中の安心基点として根付いた1年だった。

「おやこの広場びーのびーの（菊名ひろば）」、「預かり保育まんまーる」においても資格取得を目指すなど、全体としてのスタッフの力量を高めながら、それぞれが親子に対して、地域に対して「やりたいこと」が明確に主体的に出てきた充実した1年だった。

法人の自主事業である出版、制作関係を担う「企画室」については、幼稚園保育園ガイドの発行について、毎年、二冊にあった紙面づくりを深（進）化させることをめざし、新制度導入によって幅が広がった保育の仕組みをよりわかりやすく掲載しながら、区内および近隣区の園選び対象家庭に欠かせない媒体にまでなってきたように思う。同時に幼稚園協会やにっぽん子育て応援団、子育て支援をしたい企業をはじめ、他機関からのヒヤリングや連携を求められる機会が増えたのもこの1年の傾向である。

「港北区地域子育て支援拠点どろっぷ」においては、18区中、乳幼児人口増を見込まれる5区についてサテライト設置構想のモデルとして、「どろっぷサテライト」の開所にめがけて場所選びから施工、建設、開所に至るまで、行政と協働しながら、大倉山での実践と同様、場所にこだわり、3月30日に綱島東エリアでの無事開所に至った。その一方で個別相談と地域支援を両輪で行う、親子に身近な場所での常勤1名専任による「利用者支援事業 横浜子育てパートナー」が1月末から18区一斉に活動をスタートした。要綱、研修から関係機関周知、マニュアルに基づく記録票の整備などの準備にも注力した年度末であった。

以上、毎年のように全事業で職員数が増え、職員が円滑に活動できるための労務管理や理念の継承の必要性が求められるようになった。1月には全事業職員一斉研修なども試み、現場を支える事務局体制の強化の必要性がさらに課題となった1年であった。

第2 事業内容

1. 子育て支援施設の運営

① 「おやこの広場びーのびーの（菊名ひろば）」

（横浜市子ども青少年局委託事業 親と子のつどいの広場事業）

（1）基本データ

① 対象	主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者
② 実施場所	横浜市港北区篠原北1-2-18
③ 開催日時	月曜～金曜 9時30分～16時 第3水曜 12時～16時
④ 年間利用者総数	7,449人
⑤ 1日あたりの平均利用者数	31.6人
⑥ 事業概要	・子育て親子の交流、集いの場の提供 ・子育てに関する相談の実施 ・地域子育て関連情報の収集及び提供 ・子育て及び子育て支援に関する講習の実施 ・一時預かりの実施

（2）1年間の報告

- ・親子にとって交流の場となるよう、また子どもは子どもらしく成長できるよう、ひろばに集うみんなで見守り、共に助け合い、育ちあえる場となるように心がけた。
- ・スタッフは個々の親子に寄り添い、コミュニケーションを大切に、それぞれの家庭が必要な支援をすることで、子どもは子どもらしく育ち、親も子育てが楽になるようにサポートすることを心がけた。
- ・子どもたちが、ひろばだけでなく外で自然にふれあいながら遊べるように「お外でひろば」を設定し、内容を利用者と共に考え年5回実施した。

- ・利用者同士がひろばで子どもを預かり合うことで、親はリフレッシュの時間となり子どもの成長をも感じることができるのではないかという利用者の声から、スタッフと共に内容を検討しながら「お互い保育」を数回おこなった。
- ・地域の子育て中の親子が中心となり地域子育て支援者と共に『菊名子連れお出かけマップ』改訂版を作成した。
- ・広報紙を町内会の回覧板に入れてもらうことができ、地域のより多くの方にひろばを知っていただくことができた。
- ・ひろばの一時預かりの特徴をいかし、預かり中の子どもを利用者と共にみんなで見守った。一時預かりのアンケートを実施しびーのびーの通信に特集することでひろばを利用したことのない親子にもひろばの預かりについて知ってもらう機会を作った。

② 港北区地域子育て支援拠点どろっぴ

(港北区地域子育て支援拠点委託事業)

(1) 基本データ

① 対象	主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者
② 実施場所	横浜市港北区大倉山3-57-3
③ 開催日時	火曜～土曜 9時30分～16時
④ 年間利用者総数	33,285人
⑤ 1日あたりの平均利用者数	134.8人
⑥ 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・親子の居場所 ・情報収集、提供 ・ネットワーク ・子育て相談 ・人材育成 ・子育てサポートシステム ・利用者支援事業

(2) 1年間の報告

- ・日常的なひろば(＝居場所)を通じてはもとより、ひろばと連携したプログラムの改善と継続実施によって、子育てスタート時点の大切な時期を見守り応援することができた1年だった。
- ・こうぼく net ほいっぴ企画の「子育て応援隊」缶バッジの配布キャンペーンや子育て応援マップの改訂や新規作成も進むなど、親自身が主体となつての子育てしやすい環境づくりの応援を拠点としてできたことは大きかった。
- ・サテライトの開設に向けて、行政や各関係機関との協議を経て、必要な地域情報・地域資源・人材を洗い出し、ニーズ把握や不足している地域などの現状把握を行った結果、綱島東地区にサテライトを開設することができた。
- ・利用者支援事業基本型「横浜子育てパートナー」を円滑に実施することができた。

1) 親子の居場所

- ・今年度初めて、親子ボランティアメンバー内で「おたがい保育」を年2回、育児講座と併用して10組ずつ交代で相互保育をしながら実施した。我が子を見ながら、他児を預かりあう経験を通して親が成長しあう場を提供し、おたがい保育の必要性和意義を共有することができた。
- ・プレママカフェの開催数を4回から5回に増やし、復職するプレママが増えていることを受け、育休中の方に先輩家庭として入ってもらうなど内容の充実を努めた。また、プレママカフェやくるみサロン参加経験者が次回開催時には先輩家庭として参加するケースが増え、利用者同士の支えあいの循環がなされた。
- ・外国につながる家庭については、MSC(多文化共生サポートクラブ)のメンバーがやさしい日本語で作成した紹介カードを区内各所に置いた。

2) 情報収集・提供

- ・企画室と連携し、「オープンデータを活用した子育て情報サービス検討プロジェクト」に着手した
- ・利用者の意見を反映しながらわかりやすい情報提供媒体となるようHPの改訂や定期通信の改訂に着手した。

3) ネットワーク

- 「ぎゅっと」本会議を3回開催、研修1回、イベント「小さな太陽」1回を通して、拠点、4つのひろばのスタッフ間交流が深まり、港北区内で子育てをしている家庭に向けて同一の視点を持てるようにしていった。
- 地区支援としてはマップ作りの他、新横浜の子育てサロン「花の輪クラブ」の次期担い手探しについて、担当地域ケアプラザコーディネーター、地域の民生委員、町内会等にも相談。近隣サロン（「わっとほーむ」）と連携し、次期担い手発掘につなげた。
- 大倉山地区への10年の御礼を含め、事業報告や交流の場を正式に持つことができた。
- 共創事業本部仲介で、(株)UCCとの企業連携によるコーヒーコーナーの改善ができた。

4) 子育て相談

- 個別相談予約が増え、継続を希望する相談者が増えてきた
- 利用者支援事業の導入により、相談内容における連携や記録票の管理の仕方について検討した。
- どろっぴサテライト開所により職員増員にもとづく新任者研修などを行った。
- のびのび月ようびやふらっと&ほっとサロンなどの講座にファシリテーターとしてその企画段階からアドバイスをを行った。
- 近隣関係機関（認可保育園など）からの相談も依頼されるなど、地域への拡がりも見られた

5) 人材育成

- 地域のチカラ応援事業「P35（パパさんゴー）」の活動支援として、広報協力、保育コーディネート協力、地域のキーマンへの橋渡し、貸館施設との橋渡しを行った。また、このグループで港北駅伝に出場するなど活動の発展を支援した。
- 区内で活動している障がい児地域訓練会、自主サークル7団体と関係機関との交流会を年3回開催した会を通じてニーズを把握し、区社協と共催し「障がい理解講座」を3回開催した（区社協、城郷小机地域CP、日吉本町地域CP）。初回は「おんぶにだっこ」の研修として位置付けたほか、子サポ提供・両方会員にもメーリングリストなどを通して参加を促すなど、地域人材の掘り起こしに努めた。（講座参加人数は延べ148名、保育体験希望者はそのうち、54名）。また、障がい児グループ支援を通じて区内で活動する7団体による自主的なグループ「ななつから…」が結成された。

6) 子育てサポートシステム

- 2015年度末の港北区会員数は1692名。全市内の約15%を港北が占めた。活動件数は月平均で810件となった。1月以降の繁忙期には定期説明会の定員を倍に増やしたり出張説明会を開催するなど多くの方が説明会に参加できるよう努めた。
- 出張説明会は、ケアプラザやつどいのひろば、子育てサークル等などで合計12回実施。年間通して合計786名の方が説明会に参加した。
- 会員相互の交流会は2回実施し、延べ26名の方が参加した。子サポ通信は2回発刊した。
- 今年度は病児保育やヘルパー事業の見学・研修を行い、コーディネーターのスキルアップを図ると共に、現状のシステムについて考察した。

2. 子育て支援に関する事業

預かり保育「まんまーる」

(1) 基本データ

① 対象	おおむね2～3歳（月～金：各8名 一時預かり：各日2名）
② 実施場所	港北区大倉山3-3-3 磯部マンション205
③ 開催日時	月曜日～金曜日 9：30～13：00
④ 利用者数（年間登録総数）	グループ保育：33名 一時預かり：登録者17名

(2) 1年間の報告

- 一人ひとりのペースを大切にじっくり対応して、みんなリラックスして保育時間を過ごせるようになった。週5コースでスタート。火・木・金コースは定員（8名）に達し、合計33名。一時預かりの登録者は17名。
- 同じ曜日のメンバーで、お互いの子を理解し、見守り合う姿が見られるようになった。菊名ひろば・どろっぴ・企画室より地域のイベントを案内し、子育てを楽しむきっかけを提供できた。

- ・一時預かりの利用者：月平均14名、延長保育の利用者：月平均12名/利用時間：月平均18Hと、昨年度より大きく上回った。今年度は出産のフォローで預ける方が多く、中にはグループ保育と一時預かりを併用して5週間連続で毎日来るお子さんもいた。
- ・出産による理由で一時預かりを利用された方が、子サポ提供会員でもある菊名ひろばスタッフに送迎をしてもらうことで安心され、連携の大切さを感じた。配慮の必要なお子さんについてどろっぷスタッフと情報を共有し、相談につなげることができた。

3. 子育てに関する地域の情報発信

(1) 基本データ

① 対象	子育て世帯
② 実施場所	横浜市港北区大倉山5-40-3 大倉山壺番館207
③ 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:00

(2) 1年間の報告

① 出版・制作・企画事業

1) びーのびーの幼稚園・保育園ガイド」の発行事業（年1回）

子ども・子育て支援新制度の情報を発行時の最新情報として掲載し、制度を知らない子育て家庭に情報を届けた。

2) 制作

- ・横浜市幼稚園協会（港北支部、都筑支部）の園長会に参加することでより情報共有をし、イベント内容を工夫するなどして効果的な情報発信をすることができた。
- ・「オープンデータを活用した子育て情報サービス検討プロジェクト」に着手した
港北区地域子育て支援拠点どろっぷと連携し、子育てアプリの情報配信の仕組みの検討、報告書を作成した。

3) 書籍販売

子育てに関する書籍を選定、イベント時などに適切な冊数を販売した。

4) びーのびーの通信

- ・2015年度も遅延することなく年間10回の発行が出来た。
- ・どろっぷサテライトの開館に伴い、1Pのロゴやイラスト、4Pの記述などをリニューアル。
3Pは来年度のおよこの広場びーのびーの開館時間等変更によるマイナーチェンジを3月に行った。
- ・11月より表谷町内会の回覧板に毎月150部回覧されることとなった。
- ・今年度はスタイル整骨院、きくな皮膚科小児科さんの新規の広告をいただいた。
広告が1枠のみだった月は2回(12月・3月)で、昨年度に比べると半分減少となった。

② インターネット事業

1) 港北区子育て応援マップココマップ（ウェブサイトの編集・制作・運営）

新しいココマップ世代の編集メンバーが増え、記事の作成を任せるなどにより当事者目線の発信をした。

2) トレッサ横浜HP内「とれおんパーク」ブログ記事制作 トレッサ横浜委託事業

ブログのイベントが年2回で定着してきている。各回に次回の広報もするなどのつながりもでてきている。イベント時に“地域情報担当”として話かけるなどをし、ひろばの紹介や子育て情報の提供をした。

③ 事務請負・コンサルティング事業

1) 子育てタクシー

サンタクシー（株）に加え、新たに東宝タクシー（株）との協働がスタートし、そこから地域の大学との連携も実現した。

2) 子どもと保育総合研究所事務局

研究所の夏季大会、冬季セミナーの事務局としての役割りを適切にこなし、報告書制作などにおいてより深く作業に関わることができた。

4. 子育てに関するセミナー・イベント・調査等の企画実施

(1) 1年間の報告

① 絵本の会

- ・菊名ひろばでおはなし会を隔月で実施。菊名ひろばバザーで特別おはなし会を実施（2回）。
- ・びーのびーの通信へ絵本紹介執筆。絵本特集を組む。港北図書館主催のおはなし大会に2回参加。

- ・4月と10月に絵本の入れ替えを行った。ひろばにポスターを掲示に日程をお知らせ。
2組の親子がいっしょに選書・入れ替え作業を行った。
- ・年4回定例会を実施。会員さんも参加できるよう、ポスターで告知。実際に3名ほど参加。

② ひろば人事業

年間4回の現場視察会を開催し、7組17名の参加があった。

(8月/1組5名、9月/2組2名、12月/2組7名、3月/2組3名)

法人が運営する子育て支援施設(菊名ひろば、港北区地域子育て支援拠点どろっぴ)を中心に施設見学、説明を行い、事業の啓発・情報交換の場とすることができた。また、実践者のための実務体験の場として活用いただいた。他に、取材・見学が、15組52名あった。

5. 地域型保育事業の運営

①小規模保育事業 ちいさなたね保育園

(1) 基本データ

① 対象	生後57日から2歳児
② 実施場所	横浜市港北区師岡町824 第一ネッキビル
③ 開所日時	月曜～金曜 7時30分～18時30分 土曜 7時30分～15時30分
④ 利用定員	19名

(2) 1年間の報告

- ・0歳児3名、1歳児11名、2歳児4名の合計18名の保育を行う。
全員が新入園児ということで、子どもたち、保護者の方々、職員も安定した生活には時間が必要だと思われたが、少人数ということが信頼関係を築くにもよい方向に影響した。
- ・保育の基盤づくりとして、外部研修、自主研修を含め、約40の講座を受講し、保育の質の向上と、自己研鑽を目指した。また、職員会議、振り返りを大切にし、保育の共有を行った。
- ・地域への仲間入りとして、月1回の公園掃除に参加。
散歩時に顔見知りになり、近所の小規模多機能介護施設「なの花」とはお楽しみ会、お別れ会などに来ていただくなどの交流を行った。
- ・区のベビーステーションとなった。
- ・地域の親子との交流としては、親子遠足に1組の方が参加。

5. 上記の事業を行うために必要な一切の活動

(1) 1年間の報告

① インターン制度

学生ボランティア説明会開催等の活動や地域のイベント、ひろばのおはなし会に積極的に参加した。

日常のひろばの中で親子との関わりを大切にしながら活動し、2月のインターン企画では0,1歳児向けの手作り絵本を作成し読みきかせと、0,1歳児が絵本に興味を持ちやすい環境づくりについての卒論の発表をおこなった。

②法人事務局

- ・理事会、全体会、運営連絡会等、法人運営に関わる一切の会議推進のサポート
- ・まんまーる預かり保育事業の運営サポート
- ・ちいさなたね保育園の運営サポート
- ・「ひろば人」事業のコーディネート
- ・インターン活動を行うためのサポート
- ・対外的な窓口としての活動(電話対応、年賀状等)
- ・公認会計士の下、月一回の会計チェック等による財務管理
- ・労務管理 有給休暇の取得及び、時間外・休日勤務の時間外手当の支給の実績有り
- ・法人研修の準備と開催サポートおよび個人別研修記録表の作成
- ・「びーのの素」のメーリングリストグループへ月1回の法人情報の発信
- ・マイナンバー制度導入に関する理解と実務(収集および管理)